

「薬学免疫学 改訂第2版」

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）対応一覧

2015.3 (株) 南江堂

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
C 薬学基礎		
C8 生体防御と微生物		
(1) 身体をまもる		
① 生体防御反応	1. 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	3章-2.
	2. 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。	6章
	3. 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	3章-1.
	4. 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。	3章-3.
② 免疫を担当する組織・細胞	1. 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	1章-1.
	2. 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	1章-2.
③ 分子レベルで見た免疫のしくみ	3. 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	8章-1.
	1. 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	3章-1.
	2. MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。	4章-1.
	3. T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。	5章-2.
	4. 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	2章-1.
5. 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	8章	
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用		
① 免疫応答の制御と破綻	1. 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	8章-3.
	2. アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	7章
	3. 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。	9章
	4. 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。	10章
	5. 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。	9章-4.
	6. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。	9章-4.
② 免疫反応の利用	1. ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。	11章-1.
	2. モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。	12章-1.
	3. 血清療法と抗体医薬について概説できる。	14章-7. 15章-2.
	4. 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）	12章-2.
E 医療薬学		
E2 薬理・病態・薬物治療		
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬		
① 抗炎症薬	2. 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。	14章-3.
② 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療	1. アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。	14章-5.
	2. 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。	14章-1.
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬		
① 呼吸器系疾患の薬、病態、治療	1. 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	14章-6.